

健康登山28:自然歩道14 (奈良駅～鹿野園～弘仁寺～天理駅)

コース	奈良駅 2.5km/40 1.0km/17 1.1km/19	新薬師寺 2.3km/43 円照寺バス停 0.6km/14 弘仁寺 1.5km/23	鹿野園 1.8km/31 竜王池 1.9km/38 白川ダム 5.0km/78	白山比咩神社 精華学院交差点 天理駅
水平距離	17.7km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	15.2km			
累計高低差	登り362m、下り382m			
標準歩行時間	5:04			
実績歩行時間	5:33			



山行報告

山行日 2007・9・06(木) 天候 曇りのち雨 参加者 5名

行動 奈良駅9:20 新薬師寺10:00 白毫寺10:18 鹿野園10:51 白山比咩神社11:43~
12:15 円照寺バス停12:33 竜王池12:50 精華学院交差点13:28 弘仁寺13:55~
14:11 白川ダム14:36 名阪国道ガード下14:57 天理駅15:53 京都へ

記録

台風9号の接近で午後は雨予報だが、登山ではないので予定通り実行した。
奈良駅で『北・山の辺の道』と称する奈良から天理までのてくてくマップをもらった。奈良駅から興福寺を経て春日神社に入ると正面に先月登った高円山が見えた。今回は高円山の山麓を歩くので、そちらを目指して草地を真っ直ぐに進んだ。鹿の群れがのんびりと遊んでいた。志賀直哉旧居前に出たので新薬師寺を通り、奈良駅から1時間ほどかけて白毫寺に着いた。萩はまだ咲いていなかった。
白毫寺で東海自然歩道に合流し高円山登山口を左に見ながら南へ向かった。右手には奈良市内や生駒山が見える筈だが天気が悪くて見えなかった。山道を抜けると車道に出た。上の地図でもわかるように今回のコースは山裾を縫うように歩くので迷わずに左折したが、この道は高円山ドライブウェイに通じる道だった。春日病院前で気付き地元の人案内で自然歩道の鹿野園へ戻った。道標があったにもかかわらず、それを見ず思い込みで歩いたのは失敗だった。
この後は丁寧に地図を見て歩き、白山比咩神社で昼食をさせてもらった。昼食後、嶋田神社、崇道天皇陵を通り円照寺バス停に着いた。自然歩道は車道をすすむことになっているが古い『てくてくマップ』では円照寺、竜王池、五つ塚古墳群を通り南側の竹林を越えて自然歩道に出ようになっている。今回はこちらを選んだが竹林の道はかなり荒れていた。
精華学院交差点から高樋町の集落に入るのだが、西側にバイパス道がありこちらを歩いた。しかし単調でやはり旧道を歩く方がよさそう。弘仁寺を拝観後小休止、その後白川ダムを周回し名阪国道ガード下をくぐるとゴールも近い。葡萄畑や花菖蒲栽培地を通り抜け車道に出ると天理の市街地が見える。広大な天理教本部と長い商店街を経て16時前に天理駅についた。
5人中2人が蛭にかまれていた。雨の草むらでやられたらしい。

自然歩道 (奈良駅～鹿野園～弘仁寺～天理駅)



興福寺
09:27



春日神社境内
09:42



新薬師寺
09:59



車道横断標識
10:32



白山比咩神社
12:15



円照寺
12:41



五つ塚古墳群
12:56



弘仁寺
14:10



白川ダム
14:51



天理教本部
15:33

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：北 山の辺の道 奈良駅～天理駅）

参考資料、奈良の伝説、HP / その他

新薬師寺：華嚴宗。新は靈験あらたの意味で、新旧の意味ではないそうです。

天平 19 年(749)聖武天皇眼病平癒祈願の為、勅願により、光明皇后が建立。天平時代は南都十大寺の一つに数えられた。国宝に、本尊の薬師如来坐像(眼が大きいのが特徴)、十二神像(薬師如来の眷属)、本堂など。

因みに、西ノ京の薬師寺は法相宗です。天平 5 年(680)天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣平癒のため発願創建された。平城遷都で 718 年藤原京から現在地に移され、808 年頃までかけて造営されたのが西ノ京薬師寺。

鏡神社：御祭神 天照大神と、八所御霊の一つである藤原広嗣^{ひろつぐ}の霊を祀る。遣唐使派遣の祈禱所だった場所に、大同元年(806)新薬師寺の鎮守として建てられた。本殿は延享 3 年(1746)春日大社の第三殿を移された。一間社春日造り檜皮葺。

藤原広嗣 は天平 12 年(740)橘^{たちばなの}諸兄^{もろえ}、僧玄昉^{げんぼう}、吉備真備^{きびのみきび}等を除こうと上奏したが棄却され、やむなく九州で兵を集め反乱を起こしたが征伐、斬首された。

「藤原広嗣の乱」後、玄昉は筑紫で急死、遺体は奈良の地に飛散、興福寺の境内に落ち、首は頭塔山、腕は肘塚町、眉と眼は大豆山町に飛来したとも口碑が伝える。

その後、広嗣の怨霊を鎮めるため鏡神社に祀られた。

比売神社^{ひめがみじや}：古くから「比売塚^{ひめづか}」と呼ばれ、この近くの赤穂に葬られた十市皇女^{とおちひめみこ}の塚だと伝えられている。

天武天皇の第一皇女^{ひめみこ}で母は額田王^{ぬかたのおおきみ}。天智天皇の皇子、大友皇子の正妃で葛野王^{かどのおうきみ}を生む。壬申の乱で父と夫の戦の狭間に置かれる。乱の後、泊瀬の斎宮になることが決定し、その出立の朝に急死する。よわい 30 歳前後。自殺、暗殺説もある。ときに天武天皇 7 年(678)4 月 7 日であった。大和の赤穂(所在不明)に葬ると有り、近くにある赤穂神社はもと社地广大で「高貴の姫君の墓」との口碑伝承から、この辺りとされた。

昭和 56 年比売塚は地元の有志の方々に、十市皇女の命日である新暦 5 月 10 日鏡神社の摂社として、比売神社^{ひめがみじや}が建てられた。なぜか縁結びの神として信仰あり。

白毫寺^{びやくごうじ}：高円山の中腹にあり、靈龜元年(715)天智天皇の第七皇子、志貴^{しき}(施基)親王の山荘を寺としたのが始まり。花の寺として、境内の五色椿と萩は有名
(萩をこよなく愛した志貴皇子の葬送のうた)

「高円の野辺の秋萩いたずらに 咲きか散るたむ 見る人なしに」
原文、高圓之 野邊秋芽子 徒 開香將散 見人無尔（万葉集2 - 231）

鹿野園ろくやおんの集落：東大寺大仏開眼供養の導師を勤めた菩提遷那ぼだいせんとなが奈良の東山中の山々に対し釈迦が悟り得たインドの仏教靈跡に模して命名したという伝説がある。
鹿野園サルナート（苑）は中インドの波羅奈国王城の東北原ベナレスの近郊にあった林園で、釈迦が悟りを開いてのち、初めて5人の比丘（修行僧）を説法、導いた所である。
ほかに修行の地のインド五山になぞらえて奈良に建てられた寺のあった所は、誓多林、大慈仙、忍辱山、高円山麓の鹿野園ろくやおん、菩提山ぼだいせんで、このあたり春日山から背後にかけて修行の場であった。

嶋田神社：延喜式内に比定されている。

御祭神は、神武天皇の第2皇子、神八井耳命かむやいのみのみことが主祭神。（第3皇子が綏靖天皇）脇祭神に早良親王（崇道天皇）を祀っている。

明治18年崇道天皇陵整備のため、二社とも当地に分社された。

社殿は享保12年（1727）春日大社の旧本殿の第二殿を移したもので、この種の社殿としては一番古らしい。

神八井耳命の末裔が尾張国島田の悪神を平らげた功により島田臣しまだのおみを賜っている。

崇道天皇陵 八嶋陵やしまのみさきぎ：早良親王（36歳）が藤原種継暗殺事件に関与したとして、無実の罪で淡路へ配流途中、淀川の高瀬橋で憤死、淡路で埋葬された親王の遺骨を淡路で掘り起こし、延暦19年（800）大和添上郡八嶋に改装し、崇道天皇と追号された。

御陵前の道路真ん中にある巨石（古墳石）は取り除くと祟りがあるとされそのままにしてある。

大和の伝説：八嶋の社の前の池のそばに、地元の人が、八ツ石と言う大きな石が七個ある。昔ある天皇が、この石の堕ちた処に自分を祭れと天の川から八個投げた、それでこの村を八嶋（町）という、もう一つは隣の帯解村に流れていった、帯解村を個石村とも言った。（早良親王が船から投げて寄こしたとも言う？）

円照寺：御水尾天皇の第一皇女の梅宮文智内親王が開いたお寺、別名山村御殿といい、華道山村流家元である。中宮寺、法華寺と並び大和三門跡の一つである。梅宮は十三歳で降嫁されたが病身のため離婚され、22歳に得度して「大通文智」という禅宗の尼僧とされた。修学院に草庵を結ぶが、修学院離宮造営にあたり移転を余儀なくされ大和八嶋に移り、その後山村に堂宇の整備に

かかられ 12 年ののち完成、寛文 9 年(1669)山村御殿となった。

五ツ塚 : 5 基の古墳からなる古墳群が円照寺の東方にあり、馬具、甲冑が大量出土した。1、3、5、号墳が 6 世紀後半の円墳、2、4 号墳が 7 世紀の方墳とされる。

柳茶屋バス停の時計台 : 地元高樋町の青年団が建て町のシンボルとなっている

弘仁寺奥の院 : 弘法大師自ら三鈷杵で彫られた不動尊が本尊で、弘仁寺の東北鬼門に安置されている。同時に「閼伽の井戸」も掘られ 1200 年にいたる今日まで、涸れることなく湧き出している。眼病、諸病に靈験あらたかな水だそうです。

弘仁寺 : 「高樋の虚空蔵さん」と呼ばれ伊勢の浅熊、福島の高柳と共に日本三大虚空蔵尊。

十三詣りで親しまれている古刹。昔は多くの堂宇があったが、元龜 3 年(1572)兵火によってほとんど焼失、元禄 9 年(1696)本堂が再建された。

大同 5 年(810)空海が、虚空蔵山(高樋山、標高 182m)に、明星が落ちるのを見て明星菩薩を彫って虚空蔵寺を建立したのが始まりで、弘仁 5 年(814)嵯峨天皇が夜毎に光る奇瑞の靈山を見て勅願し、小野篁が創建、年号を取って弘仁寺とされた。

本尊は虚空蔵菩薩、虚空(天空)を蔵とする無限の知恵と慈悲をもった菩薩。

真言 :

のうぼう あきゃしゃ ぎやらばや おん あり きゃ まりぼり そわか

白川溜池(白川ダム):大正 13 年の大干ばつを契機に、天理市、岩屋、檜、和邇地区において檜川をせきとめて築造した溜池の堤体を 4.5m 嵩上げし提高 30m、堤体長 516m に改築した治水ダム、公園と運動場がある。平成 8 年完成。

石上大塚古墳/うわなり塚古墳 :

この二つの古墳は、添うように並んでいることから夫婦墓に見立てることもある。(ただしウワナリとは後妻を意味するとか。北方に名阪国道に接して岩屋大塚古墳もあるが...。)

大塚古墳 :

全長 127m 左肩袖横穴式前方後円墳 6 世紀後半古墳時代後期、(雄塚)見学可

うわなり塚古墳 :

全長 115m 前方後円墳、(雌塚)ブドウ畑の中見学可、懐中電灯必要

豊田山城跡：室町中期、応仁の乱西軍の越智氏に属し興福寺の衆徒として布留の郷の一部に勢力を持った豊田氏の居城。標高 180mの山地に有り空濠や土塁の跡が残っている。

豊日神社：祭神 豊日神（現在菅原道真）天神或は火雷神とも云う。

古老の伝えに、社地が朝日、夕日が良き処ゆえ神社を豊日と申すとあるらしい。豊日は豊火で、豊日連が斎火を鑽って御饌(御食)を、つかさどったことのように、その本拠地に祖先を祀ったとする説もあるらしい。

(私見)布留の土地は焼畑がされていたらしいので。火の民で、豊火 = 豊日...かな？

布留の高橋：布留は石上神宮周辺地をいう、石上神宮の北に流れる布留川に架かる高い橋を「布留の高橋」といい万葉集に数多く歌はれている。傍に滝もあります。

(橋を渡りつつ妻(恋人)の下へ急ぐ男の姿を詠んだもの) 万葉集巻 12 - 2977

『石上 布留の高橋 高高に 妹が待つらむ 夜ぞ更けにける』

高橋のように高々と爪先立ちで背伸びして、妻は待ちわびているだろうに、夜は更けてしまった。

石上神宮：崇神天皇7年頃の創建、古くは布留社ともいわれ、深緑の神奈備で、信仰の中心は布留山で神殿は元来無かった。拝殿の向こうに、禁足地と称する封土があるだけであった。今の神殿の辺りが昔の禁足地とされる。

奈良の伝説：昔、布留川に一口の剣が流れてきた。触れるものは石でも木でも、みな切っていった。それが川で洗濯していた一人の女の布にまといついて留まった。それを神として祀ったのが「布留の明神」で、今の石上神社の始まり、布留の地名もそこからきたという。

崇神天皇7年ごろの創建、1874年発掘出土した剣(布都御魂剣)、勾玉を奉斎するため本殿を建造 1913年に完成した。本殿は元来なかった。拝殿(13世紀頃)は国宝、楼門(重文)は鎌倉末期のもの。

禁足地は今でも布留社と刻まれた剣先状の石瑞垣で囲まれている。

主祭神：布都御魂大神...国平の神剣の威霊、神武天皇が使用していた剣

配 祀：布留御魂大神...十種神宝、剣、鏡、玉、比礼(布)、饒速日命が携帯布都斯御魂大神...天十握剣、素戔鳴尊が大蛇を退治した剣の威霊を祀る

古代軍事豪族物部氏(祖先は饒速日命)が祭祀し、ヤマト政権の武器庫の役割も果たしていた。社宝に百濟王から献上の七支刀(七支刀(ななつさやのたち/国宝))

がある。

刀身の両側に互い違いに3本ずつ枝刃を持つ特殊な形の鉄剣である(非公開社宝)

天理教本部：今の宗教都市天理市は、もとは布留石上^{ふるいそのかみ}といわれた、神秘の山の辺の里であった。天保9年(1838)教祖中山みきさんによって開かれ天理教の聖地となる。

山の辺の道：盆地がまだ一面湿地帯だった頃から大和の北と南を結んでいた最古の道。この道を泣きながら歩いた美女影媛の哀調歌が『紀』にある。後日紹介します。